

- 問1 19世紀のアジアにおいて、欧州列強による支配が強まる中で起きた出来事について、インドでの事例として正しい名称を選びなさい。 (2022年 京都府公立入試 類似)
1. 権利の章典 2. ロシア革命 3. インド大反乱 4. フランス人権宣言
- 問2 幕末に開港した際、日本と諸外国では金と銀の交換比率が異なっていました。世界的な比率が「金1：銀15」であったのに対し、日本国内の比率が「金1：銀5」であったという状況下で、日本から大量の金が流出した理由を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)
1. 外国人が海外から銀を持ち込み、日本の銀貨と交換したのち、その銀貨で割安な日本の金貨を手に入れ、再び海外へ持ち出したため。 2. 金銀交換比率の違いを利用して、日本の商人たちが海外から安い銀を大量に輸入し、国内の金貨をすべて買い占めて隠匿したため。 3. 日本国内で金貨の価値が急騰したため、幕府が対外支払いの決済手段として、不足していた銀の代わりに金を大量に放出したため。 4. 外国の商人が日本国内で生産された質の高い銀を買い占めるために、自国の金貨を日本の銀貨と交換して国外へ持ち出したため。
- 問3 アヘン戦争に敗れた清が、1842年にイギリスとの間で結んだ条約の名前として正しいものを、次の中から選びなさい。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 北京条約 2. ポーツマス条約 3. 南京条約 4. 下関条約
- 問4 1866年、それまで対立していた薩摩藩と長州藩が、土佐藩出身の坂本龍馬らの仲介によって手を結んだ「薩長同盟」が結成された背景として、最も適切な説明を選びなさい。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
1. 天皇から直接、幕府の政治を全面的に支援するようにという命令が下されたから 2. 幕府がフランスの支援を受けて軍備を増強したため、共同で外国を排除しようとしたから 3. 幕府を倒して天皇を中心とする新政府をつくるため、軍事的な協力を進める必要があったから 4. 両藩がともに開国政策に反対し、江戸幕府を支えて鎖国を継続しようと考えたから
- 問5 ペリーが浦賀に来航してから、大老の井伊直弼が日米修好通商条約を締結するまでの間の時期に行われた出来事として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
1. 外国船を打ち払うことを命じた異国船打払令を発令した。 2. アメリカ領事のハリスが下田に着任し、貿易の開始を求めた。 3. 下関海峡を通過する外国船を砲撃し、攘夷を実行した。 4. 日米和親条約を締結し、下田と箱館の2港を開港した。
- 問6 1840年に始まったアヘン戦争で、大国である清がイギリスに敗北したという知らせは当時の江戸幕府に大きな衝撃を与えました。この国際情勢の変化を受けて、幕府が1842年に取った対外政策として最も適切なものを選択してください。 (2021年 長野県公立入試 類似)
1. 外国船を見つ次第砲撃するという強硬な姿勢を改め、燃料や食料を与える「薪水給与令」を出した。 2. 沿岸警備をより強固にするため、これまでの「異国船打払令」をさらに厳格化し、一切の寄港を禁じた。 3. オランダ船以外の外国船との接触を完全に断つため、出島を閉鎖して長崎貿易を停止させた。 4. 清の敗北を教訓として、すぐさま「日米修好通商条約」を締結し、欧米諸国との自由貿易を開始した。
- 問7 日本が幕末の動乱期にあり、薩英戦争などが起きていた1863年当時、アメリカ合衆国は大統領による指導のもとで内戦の最中にありました。この内戦の名称と、当時奴隷解放を目指した大統領の組み合わせとして正しいものはどれか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
1. 南北戦争 ― ルーズベルト 2. 独立戦争 ― ワシントン 3. 南北戦争 ― リンカン 4. 南北戦争 ― ジェファークソン
- 問8 19世紀のイギリス・インド・清の三者間で行われた「三角貿易」の構造について、各国の品物の流れを説明したものとして正しいものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. イギリスからインドへ銀を送り、インドから清へ綿織物を送り、清からイギリスへアヘンを送る仕組み 2. イギリスから清へアヘンを送り、清からインドへ茶を送り、インドからイギリスへ銀を送る仕組み 3. イギリスから清へ毛織物を送り、清からインドへ茶を送り、インドからイギリスへ綿織物を送る仕組み 4. イギリスからインドへ綿織物を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を送る仕組み
- 問9 19世紀半ばの清において、イギリスが軍事攻撃を仕掛ける背景となった「三角貿易」の仕組みを正しく説明したものはどれか。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
1. インドからイギリスへ小麦を送り、イギリスから清へ工業製品を送り、清からインドへ労働力を送る仕組み。 2. イギリスから清へ綿織物を送り、清からインドへ銀を送り、インドからイギリスへ茶を送る仕組み。 3. イギリスからインドへ綿製品を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を売った代金の銀が流れる仕組み。 4. 清からイギリスへ生糸を送り、イギリスからインドへ武器を送り、インドから清へ香辛料を送る仕組み。
- 問10 1862年、神奈川宿近くの生麦において、薩摩藩主の父である島津久光の行列を横切ったイギリス人を藩士が殺傷する「生麦事件」が発生しました。この事件の賠償を求めて翌年に鹿児島湾へ現れたイギリス艦隊と薩摩藩との間で起きた戦いと、その後の薩摩藩の動向について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 鳥取県公立入試 類似)
1. 生麦事件の解決のために下関条約が結ばれ、薩摩藩は多額の賠償金を支払う代わりに、イギリスから最新式の蒸気船を譲り受けた。 2. 下関戦争が発生したが、イギリス軍を退けた薩摩藩は自信を深め、江戸幕府に対して異国船打払令を徹底するよう強く要求した。 3. 薩英戦争に勝利した薩摩藩は、イギリスとの間に日英通商航海条約を独自に締結し、領事裁判権の撤廃を認めさせた。 4. 薩英戦争が発生したが、この戦いを通じて薩摩藩は武力による攘夷の困難さを痛感し、イギリスへの接近や軍制の近代化へと方針を転換した。
- 問11 18世紀後半からイギリスで始まった産業革命では、蒸気機関などの動力を備えた機械が工場に導入されました。この「工場制機械工業」の発展が社会に与えた影響について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
1. 商人が農民に道具や原料を貸し出して自宅で製品を作らせる家内工業が再び盛んになり、都市から地方へ人口が分散する現象が見られた。 2. 工場で働くための仕事が生まれたことで、農村から多くの人々が流入して都市に人口が集中し、生活環境が悪化するなどの社会問題が発生した。 3. 工場での大量生産によって生活物資が安価に供給されるようになったため、労働者は短時間勤務で済むようになり、都市部での生活環境は劇的に改善した。 4. 機械の導入によって少人数の労働者で生産が可能になったため、都市の労働者は職を失い、生活の場を求めて再び農村へ戻る「農村回帰」が起きた。
- 問12 1825年に出された「異国船を二の足を踏まずに打ち払う」という厳しい方針が、1842年には「遭難した外国船に薪や水、食料を与えて退去させる」という方針へと転換されました。この大きな方針転換のきっかけとなった、当時のアジア情勢として最も適切なものはどれですか。 (2018年 埼玉県公立入試 類似)
1. フランス革命の影響で自由主義的な考え方が広まり、人道的な対応が求められたため 2. アメリカのペリーが浦賀に来航し、開国を強く求めたことで幕府が譲歩したため 3. 隣国である清がアヘン戦争でイギリスに敗れたことを知り、軍勢力の差を恐れたため 4. オランダ王から開国を勧告する親書が届き、それを受け入れる決定をしたため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 インド大反乱	19世紀の世界では、産業革命を成し遂げた欧米諸国がアジアやアフリカへ進出し、植民地を広げていきました。インドでは1857年に、それまでのイギリスによる過酷な支配や文化への不理解に対する不満が爆発し、インド大反乱が起こりました。これは単なる兵士の反乱にとどまらず、インド全土に広がる民族的な抵抗運動となりました。
問2	答え 1 外国人が海外から銀を持ち込み、日本の銀貨と交換したのち、その銀貨で割安な日本の金貨を手に入れ、再び海外へ持ち出したため。	当時の日本は、世界基準に比べて「金の価値が銀に対して非常に安い（銀5枚で金1枚が手に入る）」状態にありました。外国人は、海外で手に入れた銀15枚を日本に持ち込めば、3枚分もの金貨に交換することができました。この金貨を海外に持ち帰って銀に替えれば、元々の3倍にあたる銀45枚が手に入ることになります。この仕組みを利用した取引が横行したため、日本の金は急速に失われることとなりました。
問3	答え 3 南京条約	アヘン戦争の講和条約として結ばれたこの条約により、清は上海など5つの港を開港し、香港の割譲を認めさせられました。これは清にとって非常に不利な内容であり、その後、欧米列強による中国進出が加速するきっかけとなりました。
問4	答え 3 幕府を倒して天皇を中心とする新政府をつくるため、軍事的な協力を進める必要があったから	薩摩藩と長州藩は当初、政治的な考え方の違いから敵対していましたが、それぞれが幕府による統治に限界を感じ、武力による倒幕へと方針を転換しました。坂本龍馬や中岡慎太郎の仲立ちにより、武器の調達や食料の支援などを通じて協力関係を築くことで、倒幕運動は一気に加速することとなりました。
問5	答え 4 日米和親条約を締結し、下田と箱館の2港を開港した。	幕末の外交史における時系列の理解を問う問題です。1853年のペリー来航と1858年の日米修好通商条約の間には、1854年の日米和親条約の締結があります。この条約によって日本は開国しましたが、この段階ではまだ貿易は行われていません。ハリスの下田着任は日米和親条約締結後の1856年であり、その後の交渉が日米修好通商条約へとつながります。異国船打払令はペリー来航より前の時代、下関での攘夷決行は条約締結より後の出来事です。
問6	答え 1 外国船を見つけ次第砲撃するという強硬な姿勢を改め、燃料や食料を与える「薪水給与令」を出した。	アヘン戦争で清がイギリスに敗れたニュースは、オランダ風説書などを通じて幕府に伝わりました。イギリスの強大な軍勢力を恐れた幕府は、1825年から続けていた異国船打払令（無条件で外国船を攻撃する命令）を維持することは危険だと判断しました。その結果、1842年に天保の薪水給与令を出し、漂着した外国船に薪や水、食料を供給して穏やかに帰す方針へと転換しました。
問7	答え 3 南北戦争 ― リンカン	アメリカの内戦である南北戦争（1861年～1865年）は、日本では幕末にあたります。1863年に奴隷解放宣言を行ったリンカン大統領は、ゲティスバーグでの演説において「人民の、人民による、人民のための政治」という言葉を残し、民主主義の理念を示したことで有名です。
問8	答え 4 イギリスからインドへ綿織物を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を送る仕組み	イギリスは自国の産業革命で生産された綿織物をインドへ輸出し、インドではアヘンを生産させて清へ密輸させました。そして清からイギリスへ茶を輸出させることで、最終的にイギリスから流出した銀が回収されるという循環構造を築いていました。これがアヘン戦争へとつながる国際的な背景となりました。
問9	答え 3 イギリスからインドへ綿製品を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を売った代金の銀が流れる仕組み。	イギリスは自国の貿易赤字を解消するため、植民地であるインドを利用しました。イギリス製の綿製品をインドへ、インド産のアヘンを清へ、そして清の茶をイギリスへ運ぶという構造を構築することで、最終的に清からイギリスへ銀が還流する仕組みを作り上げました。このアヘン貿易の強制が戦争の直接的な背景となりました。
問10	答え 4 薩英戦争が発生したが、この戦いを通じて薩摩藩は武力による攘夷の困難さを痛感し、イギリスへの接近や軍制の近代化へと方針を転換した。	1862年の生麦事件をきっかけに、1863年に薩摩藩とイギリスの間で薩英戦争が勃発しました。薩摩藩はこの戦いでイギリスの圧倒的な軍勢力を目の当たりにし、それまでの「攘夷（武力で外国を追い払うこと）」が不可能であることを悟りました。これを機に、薩摩藩は敵対していたイギリスと急接近し、武器の購入や軍隊の近代化を進めることで、後の倒幕運動の中心勢力へと成長していきました。選択肢にある下関戦争は長州藩に関わったものであり、下関条約は日清戦争の講和条約です。
問11	答え 2 工場で働くための仕事が生まれたことで、農村から多くの人々が流入して都市に人口が集中し、生活環境が悪化するなどの社会問題が発生した。	蒸気機関を用いた機械が導入され、工場での大量生産が可能になると、そこでの雇用を求めて農村から都市へと多くの労働者が移り住みました。この急激な都市化により、都市部の人口密度が極端に高まり、住宅不足や衛生状態の悪化、公害などの深刻な社会問題が引き起こされることとなりました。
問12	答え 3 隣国である清がアヘン戦争でイギリスに敗れたことを知り、軍勢力の差を恐れたため	江戸幕府は1825年に異国船打払令（無二念打払令）を出し、外国船を武力で排除する強硬な姿勢をとっていました。しかし、1840年に始まったアヘン戦争で、当時アジアの大国であった清がイギリスに敗北したという情報がオランダ船などを通じて伝わります。幕府は西洋諸国の圧倒的な軍勢力を認識し、無謀な武力衝突を避けるために1842年に方針を緩和しました。